スマブラメンバーを1つの町に凝縮中

ほーき雲

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
スマブラメンバーを１つの町に凝縮中

【Ｎコード】
Ｎ２６９８Ｚ

【作者名】
ほーき雲

【あらすじ】
五武山市、僕の小説の大半はここが舞台である。だったらスマブラメンバーをここに住ませてみたらどうだろうか？いちいち五武山市に来る必要はない。最初からいるのだから。（笑）
そんなテンションで始まったが・・・。

プロローグ（前書き）

予告編の続きです。見てない方は活動報告のアーカイブをご覧ください。

プロローグ

ある日、ほーき雲は立ち上がった。

ほーき雲「スマブラメンバー全員探すって絶対1人じゃきつい。しかも五武山市っていう広い場所に散らばっちゃってるんだもん。」

実は全員ほーき雲の近所にいるのだが・・・。

ほーき雲「誰かに救援要請しよう。」

マスターハンド「あれ？ほーき雲からメール？」

クレイジーハンド「ほーき雲からメール？」

D「ほーき雲からメール来たよ。」

『【救援要請】五武山市内に散らばったスマブラメンバーを全員僕の家の近くに集合させてください。僕1人じゃ足りません。よろしくお願いします。』

ちなみに、Dって何だ！？って思った人は大規模な逃走中にて詳細を知ることができます。

マスターハンド達「探すか！」

全員ほーき雲に協力するようになった。

みんなほーき雲の家から離れたところに行った時、スマブラメンバーは・・・。

リンク「みんなどうする？」

リュカ「家でゲームやる！」

ルイージ「４人１組になって分かれよう！」

全員「賛成！」

こいつらが家にいる限り、ほーき雲達はスマブラメンバーを１人も見つけられないだろう。

続く

ミサカ捜索隊（前書き）

どうなると思いますか？

ミサカ捜索隊

ほーき雲はスマブラメンバーを探す途中、ある少女に出会った。

ほーき雲「ちょっと打ち止めちゃん。人探しに協力してくれない？スマブラメンバーを探しているんだけどね。この五武山市のどこにいるのかわからないんだ。そこで君を含めた９９７０人でスマブラメンバー達を探して欲しいんだ。」

打ち止め「それじゃ、全妹達（シスターズ）に指示してみる。ってミサカはミサカは了解してみたり。」

その瞬間、いきなり９９６９人の人が現れた。しかも全員全く同じ服装、全く同じ体型である。

妹達（シスターズ）。

それはある電撃使いのクローン体である。２０００＋１体が造られたが、そのうち１００３１体はある『最強の超能力者』によって殺されている。

ちなみに、＋１体というのは制御個体で、ほーき雲が出会った少女のことである。

ほーき雲「これだけいれば全員見つかるだろう。」

打ち止め「でも、ミサカは行かないよ。ってミサカはミサカは自分の参加だけは断ってみたり。」

ほーき雲「十分だよ。９９６９人もいるのはありがたい。さらに僕もいれてマスター達もいれて９９７３人。これで見つからなかったらヤバイよね。」

そして夕方。

ほーき雲「かなり疲れた・・・。見つかった？」

検体番号１２３４５「すみません！見つけたのですが逃げられました。とミサカは失敗報告をします。」

ほーき雲「どこで見つけたの？」

検体番号１２３４５「ちょうどこの家の隣ですよ。とミサカは報告します。」

ほーき雲「・・・え？」

検体番号１２３４５「ですから、この家の隣でマリオと思われる赤いおっさんを見つけました。とミサカは再度言います。」

ほーき雲「・・・まさかみんなもうここに住んでるの？」

検体番号１２３４５「その可能性が一番高いです。とミサカは脳内の計算により当然の答えを出します。」

ほーき雲は隣の家をノックしてみた。

マリオ「あっ、ほーき雲だ。ゲームしたいの？」

ほーき雲「・・・君達ここに住んでたのね。他の人達は？」

マリオ「みんなこの近くの家に住んでるよ。」

ほーき雲の力は抜けてしまった。その後、どうやって夕御飯を食べて、眠りについたのか覚えていなかった。

続く

ミサカ捜索隊（後書き）

いきなりスマブラ以外のキャラクター出しやがって・・・。

市長が死んだ。（前書き）

いきなり何があったんだ！？

市長が死んだ。

翌日

ほーき雲「ああ、よく寝た。」

リンク「こっちはお前の家に連れていくの大変だったんだぞ。いきなり気絶しやがって。」

ほーき雲「すぐ隣だろうが。」

ヨッシー「そうそう、ここら辺に空き家いくつあるの？」

ほーき雲「５０を越えてるって聞いた。」

ピット「だから１人１件でいいんだ。」

ほーき雲「とにかくたくさんあるんだよね。」

新聞社の人「号外！号外！大変なことになったぞ！」

ほーき雲「大変なことってなんだ！？」

ほーき雲は号外新聞を１つもらう。

ほーき雲「なんだってぇーーー！！！」

D「どうしたの？」

ほーき雲「市長が・・・・・死んだ。」

ほーき雲以外「なにぃぃぃぃーーー！！！」

ほーき雲「それでさ、新市長の立候補者がコイツ1人だけなんだけどね。」

ほーき雲以外「はぁぁぁぁぁーーーー！！！！」

ほーき雲「ね。ヤバイだろ。」

ネス「来たばかりなのになんでこうなるの？」

ほーき雲「知るかよ！しかも問題はここじゃねぇ！」

スネーク「じゃあなんなんだよ！」

ほーき雲「五武山市民のほとんどがコイツを支持してるんだよ。」

ほーき雲以外「ヤベェェェェェーーーーー！！！！！」

ほーき雲「ほら、あっちで『ヤツ』が演説してるよ。」

ほーき雲以外「本気か・・・・。」

続く

市長が死んだ。（後書き）

立候補者は危ないやつらしい。

新市長大作戦（前書き）

誰なんだよ！？だいたいわかるかな？

新市長大作戦

ほーき雲「ほら、あれを見ろ。」

ほーき雲が見ているものは・・・。

タブー「これから私タブーが新市長となるのです！皆さんぜひ私に投票をお願い致します！」

ほーき雲「わかっただろ。大声でタブーが演説してるんだ。しかもあいつ以外に立候補者はいない。このままじゃタブーが新市長。となれば五武山市は終わるだろうな。」

リュカ「こんなのどうすりゃいいんだよ・・・。せっかく来たばかりなのに・・・。」

ほーき雲「方法なら1つある。他の誰かが立候補して選挙に勝つんだ！」

マスターハンド「しかし、それが難しいのは自分でもわかってるんだろ。今のタブーの支持率は最大。そこをどうやって勝つのか思い

付かないんだろ。普通そうだろ。誰が立候補するのかすら決めてないのにな。」

マスターの発言は最もである。しかし、それを否定するかのように発言をした者がいた。

D「もし、僕を含めた昔の仲間たちの中で、『リーダーシップ界の王』と呼ばれる男が立候補したらどうなると思う？」

ほーき雲「そういうやつがいたら苦労しないよ。」

D「そういうやつは実際にいる。しかも遊び、仕事に関わらず最高のリーダーシップを見せる男。そいつが何回仕切っても誰も文句を言わない。しかもそいつの夢は政治家だ。市長になるのも第一歩になるはずだぜ。そいつの夢のため、タブーからこの五武山市を守るため、そいつを立候補させてみないか？」

全員「おおーーーーー！！」

ほーき雲「おい、1つ言っておくぞ。勝てるかわからないのはわかっているが、もし勝ったとしたら、タブーは攻撃するかもしれない。その時のために、選挙当日は戦闘態勢に入っとけよ。」

アイク「そこんとこは大丈夫だぜ。なぁみんな。」

アイク以外「おおーーーーー！！」

D「よし！その勢いだ。それじゃ、やつのところへ行きますか。」

続く

新市長大作戦（後書き）

果たしてどんなやつなのか？タブーが市長になることを止められるのか？

T（前書き）

この小説は文字数の目安を４００～７００文字にしてるから毎日更新できそう。

T

D「おーい。」

???「なんだ、Dじゃないか。」

D「お前、五武山市の市長になれるとしたらなりたい？」

???「そりゃなりたいさ。地方自治でもいいからやってみたいもんだな。ところで、たくさん人を連れてきたな。どうしたんだ？」

ほーき雲「突然市長が死んで、新市長立候補者がタブーっていう悪いやつしかいないんです。」

???「そりゃいけねぇ。僕が新市長立候補してやる。ちなみに、僕の名前はTだ。」

ほーき雲「T？Dに続いてTですか？」

T「そうだけど？」

ほーき雲「おいD。これはどういうことだ？お前の仲間はアルファベット1文字のやつしかいないのか？」

D「うーん。それが大半を占める。でもそれ以外もいることにはいる。」

ほーき雲「突然だけど例え話しようか～。例えば、僕がマルスに腹が立ったとして。」

マルス「なんで俺なんだよ。」

ほーき雲「僕がマルスをボコボコにしたとする。この小説を読んでいる人にはマルスが好きな人が若干いることにはいるんだよ。」

マルス「なんで若干しかいないんだよ。」

ほーき雲「だけど君はオリキャラだから君のことが好きなやつは超不人気マルスよりも少ないってことになるんだな。」

D「それがどうしたのかな？」

ほーき雲「つまりマルスよりも強力に痛めつけてもいいってことになるんだよ。」

D「なんで何気なく武器持ってるのかな？」

ほーき雲「僕だって武器くらい持つんだよ。さぁどうする？」

D「そもそもなんでこんな目にあっているのかわからな・・・・」

ドカーン！

Dは奇跡的に生きていた。

ほーき雲「もっとまともな名前のやつを友達にするように。別に今の仲間を見放せとは言わないから。」

D「また今度紹介します。」

何はともあれ、新キャラのTと共にタブーの新市長阻止作戦が始まった。

続く

T（後書き）

Dはいい人なんですよ。今回ひどい目にあっただけで。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2698z/

スマブラメンバーを1つの町に凝縮中

2011年12月11日21時53分発行